

令和6年度 日本血液事業学会事業報告

◎会員数 令和6年4月1日 現在

A会員	6,254名
B会員	44名
合 計	6,298名

◎学会機関誌「血液事業」の発行

第47巻第1号	2024年 5月	6,526部
第47巻第2号	2024年 9月	6,670部 (抄録集)
第47巻第3号	2025年 1月	6,520部
第47巻第4号	2025年 2月	6,526部
合 計		26,242部

◎第48回日本血液事業学会総会概要

総会事務局 日本赤十字社九州ブロック血液センター

第48回日本血液事業学会総会を令和6年11月12日から14日にかけて、福岡国際会議場で開催いたしました。

現地開催を基本としつつ特別企画、特別講演、教育講演を開催した会場ではWebライブ配信も行いました。

血液事業はその発足の時から、安定供給と安全な輸血をめざしてきました。輸血医療の安全性は輸血感染症への対策が進歩するにつれて飛躍的に向上しましたが、より安全を求めることに終わりはありません。患者だけでなく、献血者や職員の安全を含めて総会テーマを「チャレンジ！ーより安全な輸血医療を目指してー」といたしました。

選定した演題の概要は以下のとおりです。

【特別企画】

＜改善活動本部長賞候補演題＞

複合機に関わる各種データの可視化による印刷用紙及び印刷コストの削減

河野 裕樹(日本赤十字社九州ブロック血液センター)

「Microsoft Forms」を用いた『ばけっと人事』及び『ばけっと総務企画課』の作成・導入について

栗木 美保(日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター)

〔特別賞(優秀アイデア賞)〕

働き方改革の推進～常態化する過度な時間外労働をなくす～ (R4～R5年度 の取り組みについて)

西村 元成(佐賀県赤十字血液センター)

献血後の転倒発生事例を低減させる試み

谷黒 涼花(茨城県赤十字血液センター)

災害から命を守るための気づきと対策

小島ひかり(北海道赤十字血液センター)

「生産管理システム」導入による製剤作業室での作業の見える化について (その2)

畑段 孝人(日本赤十字社近畿ブロック血液センター)

〔特別賞(継続発展賞)〕

Tips(チップス) ～デジタルツールの活用～

平野 翔大(福井県赤十字血液センター)〔改善活動本部長賞〕

「夏休み親子血液教室」申込フォームの見直し・自動化

佐藤 大輝(愛知県赤十字血液センター)

《ブロック血液センター所長推薦優秀演題》

梅毒陽性通知者の受診率アップを目指して

畠山いずみ(日本赤十字社北海道ブロック血液センター)

福島県内医療機関と血液センターの相互見学交流事業

長谷川 修(福島県赤十字血液センター)

ALT 高値若年献血者における脂肪肝の確認

宮城 徹(日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター)

令和 6 年能登半島地震における石川製造所の被害と対応

若森 康佑(日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター)

Net Promoter Score (NPS) を用いた献血者満足度調査

浅井 悠(奈良県赤十字血液センター)

採血における減損率低下への取り組み～「血管のカルテ」の活用と有効性の検証～

久保 千絵(山口県赤十字血液センター)

苛酷条件下で保管した感染症検体の感染症検査・生化学検査の検討

尾川 祐亮(日本赤十字社九州ブロック血液センター)

【特別講演】

特別講演 1 : 鉄の起源、そして人との関り

本間 穂高(日本製鉄株式会社技術開発本部)

特別講演 2 : 改善活動を改善する～継続するための仕組み作り～

福村 文雄(飯塚病院改善推進本部)

特別講演 3 : 福岡ソフトバンクホークスの CSR 活動「ファイト!九州」が目指すもの

池田 優介(福岡ソフトバンクホークス株式会社広報室)

特別講演 4 : 命を守る—中村哲医師のアフガニスタンでの 35 年と今—

村上 優

(さいがた医療センター ペンチャール会 Peace (Japan) Medical Services PMS)

特別講演 5 : 誰がなぜ献血するのか?—データから読み解く献血者像と献血推進—

吉武 由彩(熊本大学大学院人文社会科学部)

特別講演 6 : 気象庁の提供するコンテンツの積極的な活用のすすめ～気象災害のリスクを軽減するため

永田 和也(福岡管区気象台気象防災部)

特別講演 7 : 献血者データからみえる HTLV-1 感染症の現状と国内外の対策

相良 康子(日本赤十字社九州ブロック血液センター)

【教育講演】

教育講演1：大量出血時の止血戦略

塩瀬 明(九州大学大学院医学研究院循環器外科)

田尻 亮祐(産業医科大学産科婦人科学)

教育講演2：大量出血症例に対し迅速かつ適切に投与できる長期保存可能な新規血液製剤についての検討

宮田 茂樹(日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所)

教育講演3：採血による神経損傷

橋野 悠也(福岡大学医学部整形外科学教室)

玉利 英子(東京海上日動メディカルサービス株式会社)

教育講演4：血液事業における若年者推進のための戦略的マーケティング導入とオウンドメディア活用

宮本 峻介(株式会社 R-CONNECT)

教育講演5：KM バイオロジクス株式会社での製造販売業者としての最近の取り組みについて

永野 礼隆(KM バイオロジクス株式会社品質保証統括部品品質保証統括課)

黒木美奈子(KM バイオロジクス株式会社品質保証統括部品品質保証統括課)

畠山 大祐(KM バイオロジクス株式会社品質保証統括部品品質保証統括課)

教育講演6：ヘモビリランス：輸血の安全性向上と適正使用のための輸血チェーンの監視

松岡佐保子(埼玉医科大学国際医療センター輸血・細胞移植科)

教育講演7：看護師ブラッシュアップセミナー 献血から供給まで

中山 由紀(長崎県赤十字血液センター)

熊本 誠(日本赤十字社九州ブロック血液センター)

堀江千都子(日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター)

小田 秀隆(福岡県赤十字血液センター)

教育講演8：非溶血性輸血副作用について

後藤 直子(日本赤十字社血液事業本部)

日野 郁生(日本赤十字社血液事業本部)

教育講演9：血液製剤使用適正化方策調査研究事業に関すること

牧野 茂義(東京都赤十字血液センター)

教育講演10：溶血性貧血の新規治療薬と輸血の有効性

米村 雄士(熊本県赤十字血液センター)

教育講演11：人工血液の現状と展望

木下 学(防衛医科大学校免疫・微生物学講座)

教育講演12：廃棄血液の再生医療への利活用— ex vivo 細胞増幅に用いる platelet lysate の開発—

若本志乃舞(日本赤十字社北海道ブロック血液センター)

教育講演13：安全運転ルーティンの習慣化

柿野 拓志(SOMPO リスクマネジメント株式会社)

教育講演14：健診医師ができる献血者の人づくり

佐川 公矯(福岡県赤十字血液センター)

【シンポジウム】

シンポジウム1：「～災害は我々に何を伝えたのか～『能登半島地震における日本赤十字社の危機管理対応』」のテーマで4題

シンポジウム2：「～将来の献血基盤確立に向けて～若年層への有効なアプローチ方策を考える」のテーマで4題

シンポジウム3：「検査部門における GMP 対応の現状と今後の課題～自動検査機器のデータ管理～」のテーマで5題

シンポジウム4：「安全な在宅輸血に向けて」のテーマで4題

シンポジウム5：「細菌スクリーニング導入に向けての進捗状況等について」のテーマで4題

シンポジウム6：「DAT 陽性血液の使用は安全か」のテーマで4題

【ワークショップ】

ワークショップ1：「～新しい献血協力スタイルに挑戦！～社会行動の変化を踏まえた企業・団体への献血推進のあり方を考える」のテーマで4題

ワークショップ2：「～危機管理への備えは万全か～『事業継続計画(BCP)の最適化を考える』」のテーマで4題

ワークショップ3：「看護師の雇用促進～離職防止に向けた取り組み～」のテーマで4題

ワークショップ4：「臍帯血業務のステップアップ～採取数の増加から品質の向上へ～」のテーマで5題

ワークショップ5：「データドリブンについて」のテーマで8題

ワークショップ6：「～さらなる安定供給体制の確立を目指して～『今後の需要予測について考える』」のテーマで4題

ワークショップ7：「ハラスメント防止対策への取り組みについて」のテーマで5題

一般演題は口演179題、ポスター 94題の発表がなされました。

また、共催セミナー9社、展示29社、広告17社、寄付1社の協賛をいただきました。

現地参加者976名(会員841名、非会員135名)、Web参加を含めた総参加者は1,132名でした。

今回の総会「チャレンジ！～より安全な輸血医療を目指して～」の内容が、今後、皆様が業務を行っていくうえで、何かしらのお役にたてれば幸いです。

参加者の皆様、協賛いただいた企業の皆様、運営にあられた株式会社九州舞台様、会場を提供頂きました一般財団法人福岡コンベンションセンター様、ご支援を頂きました日赤サービス様、そして血液事業本部様、九州ブロック内の各血液センターの職員の皆様に感謝申し上げます。